

# 誰よりも速く走るのだ。 創造力というバッテリーを載せて。

ものづくりの夢を追う者なら一度は経験するはずだ、  
「今まで学んできたのはこのためだったのか」と悟る瞬間を。  
ガソリン車より速いEVを創るという夢に向かって  
走り続けている彼らもそうだった。  
自ら創造しようとした時はじめて、  
知恵と技術が掌中でひとつに重なり、  
森羅万象がリンクし始める。  
その時、この世界の豊かな広がり  
俄然輝いて見えてくるだろう。  
走りながら夢を見つけた彼らは、  
マシンを指差して冗談交じりに言っていた。  
「いずれこいつは飛びますよ」





## ■ 東京大学 EV クラブ「UTECH」

「EV(電気自動車)をやってみないか」という工学教育推進機構の草加特任教授の呼びかけに応じ、以前から東京大学フォーミュラファクトリー(UTFF)に所属していた電気工学科出身修士1年の恩田祐輔さんが中心となって、2010年春に東京大学EVクラブ「UTECH」が発足。現在は電子・情報系の堀教授・藤本准教授の指導のもとに活動し、自作のEVで学生フォーミュラ大会に参加、ガソリン車に負けないEVをめざしてマシンを磨き上げている。

8人のメンバーは電子・情報系出身者ばかりで機械の専門家を欠いていたが、シャシーをUTFFから譲り受け、慣れない工作機械を操作して必要なパーツを自作した。「電子回路を組む、鉄のパイプをつなぐ、そのたびに理屈と実際の違いを思い知らされた」と初期メンバーの1人は当初を振り返る。

だが試行錯誤を繰り返し、ハンドメイドのEVが徐々に形になっていくにつれ、「楽しそうだから」と、仲間が少しずつ増え始めた。学部3年生も、機械工学科のメンバーも加わるようになった。新しいモノを生み出し実際に走らせるという大きな目的が、皆のモチベーションを刺激したのだ。

初めての大会当日まで、もうダメだという瞬間が何度となくやってきたという。活動を支援してくれるスポンサー企業から念願のバッテリーが届いたのは、大会のわずか2週間前。そのバッテリーがシャシーに収まらないという予想外の事態。限られた時間でのチューニングはトラブル続出。なんとか走行まではこぎつけたものの、メカニカルトラブルで敢えなくリタイヤ。しかしピンチのたびに彼らは自らを奮い立たせた。以前使った教科書を引っ張り出して考え、電気以外の分野の勉強もした。数々の失敗が経験となって蓄積されていった。

EVを通じて、彼らは多くのものを手に入れた。知恵と技術と、問題を見つけ自力で解決する力、社会や企業とのつながり、仲間との連帯感。数少ない機械系メンバーがため息混じりにつぶやいていた。「電子・情報系の連中って、何でもとりあえず試してみようとするんだよね(笑)」。失敗を恐れず走り続ける彼らに、いずれ未来が微笑むだろう。

